

橋本 功議員



職員定員適正化は

橋本議員

合併から15年経ち、村の人口は2,100人減少しているのに、役場職員は増加している。適正な定員管理がされていると思えない。

- ①総職員における正規と非正規の人数は。
- ②職員の定数条例の規定どおり定員管理に取り組んでいるか。
- ③職員の希望に配慮した人事異動となっているか。
- ④人件費が膨らみ大きな財政負担の1つになっているが、今後の職員数適正化に向けた計画は。

一部民間委託や民営化を目指す

総務課長

①

総職員数	310人
正規職員	163人※
非正規職員（任期付14人※、再任用短時間7人、任期付短時間2人） 会計年度職員（保育所関係58人、学校関係17人、学童指導員17人、地域おこし協力隊16人、事務補助6人、介護保険認定調査員等10人）	147人

※正規163人、任期付き職員14人の合計177人が定員管理の対象。

- ②総職員の適正化は重要だ。本来であればしばらく職員の採用を抑えなければならないが、急な削減により業務に支障をきたさないように、また、将来における職員の年齢層の不均衡を生じさせないように、退職者数にかかわらず毎年度2名を採用している。令和7年度までに16人減となる。
- ③人事評価表により職員の希望を把握し、極力人事異動を行っているが、必ずしも全員の希望に沿った配置とはなっていない。
- ④行財政改革計画は行政業務の一部民間委託や民営化の方向性を示すことで正規職員、非正規職員の削減も可能と考えている。

財政状況の推移と今後の見通しは

橋本議員

- ①村長に就任し行財政運営の陣頭指揮にあたられ4年が経とうとしている。財政状況の推移と今後の展望は。
- ②財政構造の弾力性を判断する経常収支比率及び実質公債費率について指標の推移とそれに対する評価は。
- ③主要基金である財政調整基金、減債基金、特定目的基金等の残高の推移は。

令和6年度以降は80億円台に

総務課長

- ①村の決算状況は令和元年度173億2千万円、今年度は繰越予算を加えると202億円の予算規模となる。今後の見通しは借り入れた地方債の償還が本格化することから、令和6年度以降は80億円台で数年推移すると予想。
- ②経常収支比率は過去の大型事業、災害復旧事業のために借り入れた地方債の償還が本格化したことから、令和元年度は100.5%と極めて高い数値になった。今後の見通しは、借り入れた地方債の償還が本格化し上昇するが、令和6年度以降は減少に転じる見込みである。
- ③財政調整基金残高は令和元年度末13億9千万円。毎年2億円近くの取り崩しを見込んでいる。
減債基金残高は2億9千万円、現状維持で推移する見込み。
特定目的基金残高は34億4千万円、令和2年度末は29億3千万円を見込んでいる。
今後は、令和3・4年度は3億円ずつ、令和5年度以降は毎年7千万円近くの基金取り崩しを見込んでいる。